

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 8 月 31 日 (2006.8.31)

【公表番号】特表 2002-520385 (P2002-520385A)

【公表日】平成 14 年 7 月 9 日 (2002.7.9)

【出願番号】特願 2000-560085 (P2000-560085)

【国際特許分類】

C 0 7 C 261/04 (2006.01)

A 0 1 N 37/52 (2006.01)

C 0 7 C 317/32 (2006.01)

C 0 7 C 323/20 (2006.01)

C 0 7 C 323/41 (2006.01)

C 0 7 D 207/26 (2006.01)

C 0 7 D 277/64 (2006.01)

C 0 7 D 307/52 (2006.01)

C 0 7 D 307/81 (2006.01)

C 0 7 D 313/12 (2006.01)

C 0 7 D 317/54 (2006.01)

C 0 7 D 317/58 (2006.01)

C 0 7 D 319/06 (2006.01)

C 0 7 D 319/20 (2006.01)

C 0 7 D 321/12 (2006.01)

C 0 7 D 333/18 (2006.01)

C 0 7 D 333/20 (2006.01)

C 0 7 D 333/28 (2006.01)

C 0 7 D 333/36 (2006.01)

C 0 7 D 333/58 (2006.01)

C 0 7 D 333/78 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 261/04

A 0 1 N 37/52

C 0 7 C 317/32

C 0 7 C 323/20

C 0 7 C 323/41

C 0 7 D 207/26

C 0 7 D 277/64

C 0 7 D 307/52

C 0 7 D 307/81

C 0 7 D 313/12

C 0 7 D 317/54

C 0 7 D 317/58

C 0 7 D 319/06

C 0 7 D 319/20

C 0 7 D 321/12

C 0 7 D 333/18

C 0 7 D 333/20

C 0 7 D 333/28

C 0 7 D 333/36

C 0 7 D 333/58

C 0 7 D 333/78

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月28日(2006.6.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

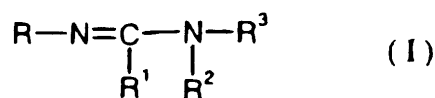
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

一般式(Ⅰ)

【化1】

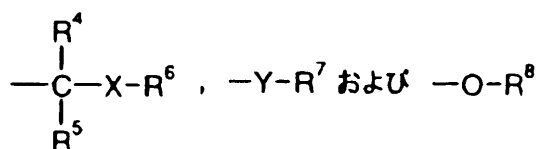


〔式中、

Rはシアノまたはニトロを表し、

R¹は水素、場合により置換されていてもよいアルキル、場合により置換されていてもよいシクロアルキルまたは場合により置換されていてもよいフェニルを表し、R²は水素、場合により置換されていてもよいアルキルまたは場合により置換されていてもよいシクロアルキルを表し、そしてR³は基

【化2】



を表し、

ここで

R⁴およびR⁵は互いに独立して各々水素、場合により置換されていてもよいアルキルまたは場合により置換されていてもよいシクロアルキルを表し、R⁶およびR⁷は互いに独立して場合により置換されていてもよいアリール、各場合とも場合により置換されていてもよいシクロアルキルおよびシクロアルケニルを表し或いは場合により置換されていてもよい一、二、または三環式の窒素を含まない複素環を表し、R⁸はアルキルまたは場合により置換されていてもよいアリールを表し、Xは単結合を表し、各場合とも直鎖状もしくは分枝鎖状のアルカンジイル、アルケンジイル、アルキンジイルを表しそしてまた基 - A - O -、- A - S -、- A - O - A' -、- A - S - A' -、- A - N(A1k) - または - A - N(A1k) - A' - も表し、ここで部分Aは基 - C(R⁴ R⁵) - X - R⁶ のC原子に結合されており、

A1kはアルキルを表し、そして

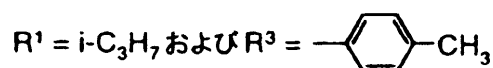
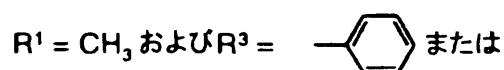
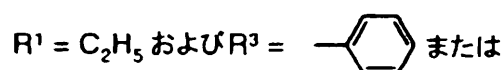
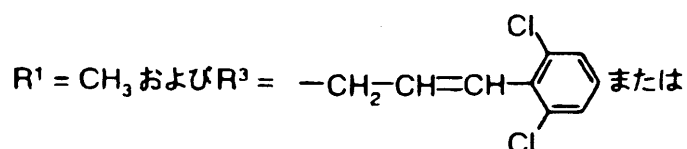
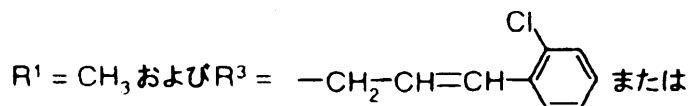
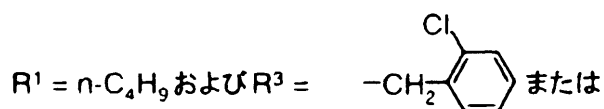
AおよびA'は互いに独立して各々直鎖状もしくは分枝鎖状のアルカンジイルを表し、そして

Yは単結合およびまた基 - O - A -、- O - A'' - O -、- O - A'' - S -、- O - A'' - S O -、- O - A'' - S O₂ -、- O - A'' - O - A' - または - O - A'' - S - A' - を表し、ここでこれらの基のO原子は式(Ⅰ)の骨格のN原子と常に結合されており、

AおよびA'は各々上記で定義された通りであり、そして

A''はヘテロ原子間に少なくとも2個の炭素原子を有する直鎖状もしくは分枝鎖状のアルカンジイルを表す]

のイミドアミド(imidamide)誘導体、ただし、 $R = CN$ および $R^2 = H$ に関して
【化3】

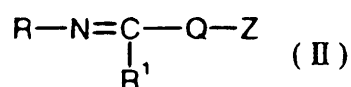


である化合物は除く。

【請求項2】

式(II)

【化4】



[式中、

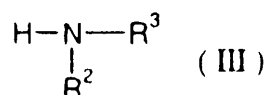
R および R^1 は各々請求項1で定義された通りであり、

Q は酸素または硫黄を表し、そして

Z はアルキルを表す]

のエタンイミドエステル類を希釈剤の存在下で式(III)

【化5】



[式中、

R^2 および R^3 は各々請求項1で定義された通りである]

のアミン類と反応させることを特徴とする、請求項1に記載の一般式(I)のイミドアミド誘導体の製造方法。

【請求項3】

請求項1に記載の式(I)のイミドアミド誘導体の少なくとも1種を含有することを特徴とする有害生物防除剤。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の式 (I) のイミドアミド誘導体を有害生物および / またはそれらの生息地に作用させることを特徴とする有害生物の抑制方法。